

## 北川ダム建設事業地域別意見交換会

## 議事概要

事 項	安曇川水系治山治水事業促進協議会	参加者	構成員：会長、副会長、 顧問、理事 高島市・県関係者
日 時	平成 23 年 11 月 26 日（土） 13:30～14:50	場 所	高島市役所新旭本庁 3階委員会室
内 容	1. 開催にあたって 美濃部局長 2. 議事 11月19、20日の地域別意見交換会での下記項目の説明内容と地元意見を報告した後、意見交換を行った。		
資 料	○地域別意見交換会速報 ○パブリックコメント公表資料 資料-1 北川ダム「検討の場」の検討結果（パブリックコメント資料） 資料-2 パブリックコメントの結果について 資料-3 高島市申入れについて 資料-4 河道改修案・維持管理案 資料-5 北川ダム検証のスケジュール		

## 【委員からの主な意見と当局の回答】

## 委員)

- ・ 話の流れを県が勝手に作って流している。前の時も知事が会見して、みんな了承してくれたと言っている。マスコミの報道を見るとみんな了解もらったと言っている。

## 事務局)

- ・ 木地山・麻生の方々に対して知事が直接話をして、一定の理解を得られたということである。

## 委員)

- ・ ③案は、河道改修で51億円かけて1/30。半分が10年であと半分が残り。ということなのか。

## 事務局)

- ・ 県が提案した3つの案は、全体を約1/30にする案で、①案 約400億円、②案 約200億円、③案 約60億円。それぞれ20年でする計画を書いているわけではなく、約1/30にするためにどれだけの対策があるのかということ。
- ・ 検討の場(第3回)で③案の河道改修について、どれくらいの期間でやるのかという質問があり、天井川区間を先行して、10年くらいを目途にやらせていただきたいと申し上げた。

## 委員)

- ・ ここまできたら、皆、河道改修に賛成してもらっているような言い方するが、皆、仕方がないから折れて言っている。
- ・ この話もそう。10年で天井川だけやりますよ、これは、県の押し切りではないか。

委員)

- ・ 安曇川地域の交換会の中で、申し上げましたように、事の始まりをするには、促進協の総会で説明してくれと言ったがそれができていない。
- ・ 促進協の総会や臨時総会するのは、市の仕事だが、もう11月も終わりだ。
- ・ 9月29日の県会の質問の中にも言っているが、土砂堆積の除去とかについては、検討の場でしっかりと議論されているのかと再質問で聞いておられる。
- ・ その時の回答は、「前回の検討の場では、細部にわたる工程までお示しできていません。従いまして、今申し上げた10年とか、20年のオーダーで議論しているということです。」
- ・ 朽木の場合では、朽木で改修しないのかという質問受けている。(ここに) そんなことどこにも書いてない。

事務局)

- ・ 朽木の改修は維持管理という意味で、それはしっかりやらせていただく。

委員)

- ・ 安曇川流域全体の問題で北川に限っていない。河床低下の問題や、朽木小学校から、牛2000頭いるということから、いろいろあることを含めて考えてもらわないとだめだ。今言われた10年、両方たすと概ね20年。
- ・ 例えば補助の問題でも、単独でやるのかどうか質問されている。補助金は来るかわからない。大戸川も同じ。安曇川に補助金出したら全国の川に出さないといけない。それについての回答も私の思ったとおりの回答ではなかった。
- ・ もう1点。1/30の問題、前回の時に申し上げました。最終的に1/100になるように努力すると言われるが、私らはもういない。

事務局)

- ・ どの川も将来目標を持って、段階的に進めている。

委員)

- ・ 平成15年は1/50、4年間ほったらかして今になって1/30。
- ・ 昭和48年から将来目標決まっているのに、それをころころ変えている。
- ・ 1/30と1/100はえらい違いだ。皆全然分かってない。

事務局)

- ・ 河道改修のやり方で、段階的な目標を定めてやっていくのはどの川も同じ。
- ・ 河川整備計画というのは対象期間を概ね20年としている。20年で目標とすべき安全度をどこに置くのかということになったときに、例えば、2ダムと河道改修とした場合には、約400億という莫大な事業費がかかる。これを当面の目標に据えてやるのは非常に難しい。
- ・ 整備計画に約400億の事業をやるというのはとても難しいので、河道改修先行案

を提案させていただいたというのが、今回の計画変更の経過である。

委員)

- ・ 知事が替わった時点からストップしている。
- ・ 民主党が言ったことに乗ってやっているだけで、これは、県の方針だ。
- ・ 国がこう言ってきたから、こうするとか、都合の良いところだけとっている。

事務局)

- ・ 知事は、ダムは一旦凍結して住民の皆さんの意見をききながら、もう一度、治水対策を検討するということを申し上げてきた。平成 18 年 7 月の知事マニフェストでは、ダムは凍結し治水対策を考えなおすと。

委員)

- ・ まず、そこでストップということだ。

事務局)

- ・ その時は、北川ダムはストップしていない。平成 19 年にクマタカが発見される時点まで進めてきた。

委員)

- ・ 県の他のダム事業を中止した。

事務局)

- ・ 県営の芹谷ダムについては、先に見直しさせていただいて中止している。

委員)

- ・ 話が変わってくるから私は怒っている。それであれば、100 歩も 200 歩も譲って、天井川を 10 年でやって、朽木の河川整備も同時に着工します。と言うべきだ。

事務局)

- ・ 同時にする。

委員)

- ・ 下流で、20 億円やったら、上流で、どれだけの工事で整備してくれるのか、金額を出してほしい。

事務局)

- ・ それは、現場を見ながら維持管理の中でやるもの。高島土木に年間 3 億ほど予算配分しているので、必要なところからやるということ。

委員)

- ・ 安曇川の改修として別費用としてやって下さい。
- ・ 高島土木に来ている金で、やって下さいというのであれば、石田川も、この間の大雨でだいぶん崩れた。

事務局)

- ・ 石田川は、補助事業でやっている。安曇川の河道改修についての重点的な投資は別枠で確保する。朽木は維持管理の中でやる。

委員)

- ・ 維持管理の中と言っても、維持管理がどこの金か私らにはわからない。

事務局)

- ・ 安曇川の維持管理はきちっと行う。

委員)

- ・ それならどういう具合にやってくれるのかということを出してください。

事務局)

- ・ 現場を見てやります。計画してやるのは約 7 キロまでの天井川区間です。約 2,100m<sup>3</sup>/s 流れるように計画的に実施する。

事務局)

- ・ 今年は台風が2回来た。朽木もそうとうやられた。それで、昨日、災害査定と言って、国のお金でできる災害の復旧も管内全体をみてやっている。
- ・ 朽木のご心配されている部分も、浚渫は12月ぐらいから調査に入れることになった。
- ・ 朽木については、改修というより今ある川を安全な堤防にする。護岸をきっちりする。溜まっている土砂を取る。そういう維持管理を十分、今年以降、きっちりやっていきたいと考えている。

委員)

- ・ 今、言われたことはよく分かったが、安曇川の天井川のところ10年なら、こっちも同じくらいの年数で、10年で改修(維持管理)やりますよというのを出示してもらわないと困る。朽木の人に聞かれたら、朽木のことは分かりませんということになる。全体的に計画を出してほしい。

委員)

- ・ 維持補修費は高島に1億5000万円。安曇川に1億5000万円ではないのか。

事務局)

- ・ 従来は、1億5000万円弱だったが、今年から約3億円確保されたので、浚渫・伐採などの費用が確保できた。
- ・ 従前から要望はたくさんいただいているが、直ぐに生命・財産に直結するような箇所を最優先して実施してきたので、なかなか、要望の半分もできていないという状況が長年続いていた。
- ・ 今年度は、全体で40箇所現場が動いている。今まで、要望に応えられなかったところが今年度から動き出している。ご理解いただきたい。

委員)

- ・ 我々も、いっぺんにやってくれとは言っていない。計画をきちっと出してくれと言っている。
- ・ 本当は全部を10年でやってほしいが、朽木と河口部は、この10年に含みますという話をして計画立ててくれたら、我々も住民に説明しやすい。

事務局)

- ・ この間の説明の中でも朽木と河口部、安曇川の分岐点などの対応についても説明している。

- ・ 安曇川の改修が済まないといけないというわけではなく、維持管理の範囲でその都度やっていきますと説明させていただいている。

委員)

- ・ 北川ダムは、やめると言っていないという発言は、そのとおりと思ったが、(階段の)イメージ図に惑わされてしまった。こういうふうにいけると皆思っていると思う。このとおりにやれるということなら、何か、市と県が確認書でも締結して、証を作っておかなければ。

事務局)

- ・ イメージ図は以前に説明させていただいたもので、基本的な考え方を階段で表したものだ。

委員)

- ・ 階段のイメージは目標であって数字がでてない。当面の目標はこれで良いが、市長と県が確認書を締結しておけば、市民も理解してもらえらると思う。

事務局)

- ・ 来年、河川整備計画を作るがその中で、「検討の場」でお示しした階段のグラフを参考資料として整備計画に盛り込む。「検討の場」だけでお示しした計画ではなくて、整備計画の資料として添付することになる。

委員)

- ・ ダムだけに頼らない治水。これは言葉のアヤである。
- ・ そのダムがいつできるのか、夢みたいな話であるなら、ダムはしないとやっているのと同じではないのかと思う。

事務局)

- ・ 安曇川の改修も昭和 32 年から進めていたが、平成 10 年までに約 4 k m できただけ。ダムであれ、川であれ、莫大な事業費がかかるもの。他の川を止めて安曇川だけに全部集中したら出来るのかもしれないが、県下、同じような状況の川がたくさんあるから、予算のバランスをとってやっている。

委員)

- ・ 安曇川は、かなり良い条件になる訳か。

事務局)

- ・ この間の意見交換会で、鴨川どうかという話が出た。
- ・ 鴨川は、暫定でしか出来ていない。安曇川とは流域や流量は、約 5 倍も違うが、鴨川も、あふれたら、大変なことになる。
- ・ 一番進んでいないのが石田川。補助事業で進めているが、現在、石田川は国道 161 号の下で工事が止まっている。今回の 9 月雨でも、土のうを積んで対応しているという状況。
- ・ 予算がない中で精一杯やっているということをご理解してほしい。

委員)

- ・ 嘘は言っていないと思うが時間がかかる。ダムがそうである。今になってもできてないから。
- ・ 県の都合によって基準下げますと、今も精一杯させてもらいますと言うけど、安曇川以外にも一杯困っているところはある。
- ・ もし、大きな台風でほかのところが大きな被害が出たら、高島に集中して入れている場合でなくなる。
- ・ 維持補修でもそう、50年の債務負担組んでくれるわけでもない、どうなるかわからない。

事務局)

- ・ 知事もあの区間(安曇川の天井川区間)には、集中投資すると言っている。

委員)

- ・ 知事が言っているのにアカンとは言えない。
- ・ 今年の総会では詳しい説明は何もなかった。

事務局)

- ・ まだ検証途中でこういった報告はできていなかった。

委員)

- ・ 総会をしてくれといってもできていない。誰の責任とは言わないが、今まで促進協がダム建設やってくれとがんばってきた、クマタカの問題もあったけど、急遽こんな話になった。
- ・ 市長に1/30になった意義はどこにあるのかという回答は出したのか。

事務局)

- ・ まだ協議中で出せていない。

委員)

- ・ さっき国からの要請ということで答えたように聞いたが、これをする事によってこんなメリットがあるという意義は一言も聞いていない。そこをみんなに言ってもらいたい。

事務局)

- ・ 「検討の場」でも申し上げたと思うが、10年で集中投資して本当に危ない天井川区間の安全度を確保するということに意義がある。

委員)

- ・ そこをハッキリ言わないと。ほんまの意義は災害を防ぐということにあると思う。
- ・ 水没地のところの木を切ってほったらかしといたらあかんとか、いろんな問題が出てくる。その対策は河道改修には入らないのか。

事務局)

- ・ それは別予算で対応する。

委員)

- ・それは別予算でいいが、台風 12 号の時も木の株がたくさん流れてきている。見ているか。

事務局)

- ・ 見ている。荒川で崩壊した。

委員)

- ・ そういうことがすでに起こっている。早くするのは良いけど、こんなもんぐらいで追いつかないのではないか。

事務局)

- ・ あちこちで大雨が降るといろいろ出てくる。その都度対応させていただく。今回の流木も土木で対応させていただいた。

委員)

- ・ 奈良県は壊滅的な打撃を受けられたが、そういうことのないように 1/30 にした意義を聞きたかった。市長も同じことを言っている、そういうことを説明してもらわないと。
- ・ われわれと違う感覚でいる若い人に聞いてもダムなんかいりませんという。若い人は安ければよいと思っている中で、意義をしっかりとってほしい。
- ・ 市長に早く回答してほしい。

事務局)

- ・ 河道改修の具体的なプログラムを言われている。その点がまだ調整が済んでいない。

委員)

- ・ この間も市長の申入れを配っているが、みんな何も言わない。一度回答してこれでは回答にならんと拒否されているが。

事務局)

- ・ 1 点だけ河道改修の具体的な推進プログラムの件は調整中であるが、20 年先までの具体的な予算を約束するのは難しい。

委員)

- ・ 難しいというより現実的には無理だ。
- ・ われわれが言うのは、みんなに見えるようにしないと誰も信用しない。

委員)

- ・ 基準が違うのに「見通しが甘かった」と知事は言っている。

事務局)

- ・ 当時は右肩上がりの公共事業の中での話と理解している。これだけ予算がなくなってきた時にどうしたら安全度が上がるかということ考えた上での話。
- ・ 当時と今の考えが違ってきたというところで、「見通しが甘かった」という発言と理解している。

委員)

- ・ まともに聞いている人は、いつになったら何をしてくれるのかと思う。だからき

ちんとした計画をと言っている。

事務局)

- ・ 大戸川でも芹谷ダムをやめた芹川でも年間約 2 億円つぎ込んで、現場は動いているので、地元から一定の理解をいただいている。
- ・ 安曇川も来年から目に見える形でやっていきたい。
- ・ 安曇川に約 2 億円の予算の見積もりをしている。

委員)

- ・ 一つ災害が起こったらそんなこと言っていられないことになる。

事務局)

- ・ その時は国の補助を受けて災害復旧をすることになる。
- ・ 県単独費で対応するのは大変難しいが、ダム関連河川として大戸川、芹川、安曇川については集中的に取り組みたい。

事務局)

- ・ 高島駅の手前の和田打川をみてほしい。今まで要望いただいてもなかなか伐開も浚渫もできていなかったが現場相当進んでいる。本当に整備したときの様子になっている。
- ・ 他の川についても同じように維持管理は目に見える形でやっていく。

委員)

- ・ 12 月にもう一回説明会するのか。

事務局)

- ・ 12 月には学識者の意見を聴く。淡海の川づくり検討委員会を開く、年明けてから全体の総括として報告会をする。
- ・ それを踏まえて 1 月の末に公共事業評価監視委員会に諮る。

委員)

- ・ 知事が 9 月に木地山へ行って話をしている道路、「緊急自動車が通れるようなことはして欲しい。」と言う地元の要望への見通しはどうなっているのか。

事務局)

- ・ 地元と現場を直に見て、要望箇所を聴いている。今年も少し手を付けているが、来年予算を要望している。

委員)

- ・ それは何の予算で。

事務局)

- ・ 単独事業。

委員)

- ・ ダム関連の河川のお金ではないのだな。

事務局)

- ・ 河道改修とは別の予算



事務局)

- ・ 舗装も土木の道路予算で実施している。冬場の雪で痛んでいるのできれいに直している。

委員)

- ・ どの程度改良するのか知らないが、ダム水没地予定の道路を金かけてできるのか。

事務局)

- ・ 以前 90 度に曲がっている道路を改良した。盛り土になったので、下流側の水が乗りそうになるところの川を掘削して道路に使った。

委員)

- ・ 上流は水没地でないので触りやすいけど下流はダムができたなら水没するところ。ダムで将来水没してしまうところに金がないと言っているのにできるのか。
- ・ 本当にしてくれるのか。

事務局)

- ・ 今、地元から聴いている内容はあまり大きなことは言っておられない。ほんとに見通しの悪いところの改良とかを言っておられる。

委員)

- ・ 代表者のことだけ聞いてもだめだ。他にも人住んでいる。ここだけ掘げてくれたらいいということでなく集落が納得するように。

事務局)

- ・ 区長さんにも話は聞いて、予算も要望しながら改善、改良をやっていく。

委員)

- ・ 麻生古屋梅ノ木線もある。小浜朽木高島線、長尾はできたがその下手もある。金がないと言っている県が本当にしてくれるのかなと思える。

委員)

- ・ われわれとしては地元の人に説明ができるように、朽木はこれとこれとをするとか船木はこういうふうにやります、天井川のところは 10 年間でこういう具合にやりますということをもう一回出してほしい。
- ・ われわれも今説明してもらっている話をストップとは言っていない。

事務局)

- ・ そういう思いで、19 日、20 日にはこの図面とどこを掘削するかという横断図と朽木、船木での維持管理を考えているところの図面を出した。

委員)

- ・ それはよくわかる。しかし、いつ頃ぐらいまでにこうやってやりますと言ってくれんとみんなずるずる引っ張られる。
- ・ 私は何回も言っているように河道改修の方が良いと思っているし、早くしてほしいと言っている。
- ・ 朽木の当事者は苦勞してもらって申し訳ない。10 年の天井川の改修に併せて船木(下流)と朽木(上流)をこのぐらいのところの整備を考えているところを出

してほしい。

事務局)

- ・ 維持管理は、既に今年でもやらせてもらっている。

委員)

- ・ 船木と朽木に関しては、天井川の整備と同じように 10 年間でこういったことをするというのをいってくれたら安心する。地元の人に対する説明もつく。

事務局)

- ・ 今日来られている市の方も県事業の推進に尽力いただいている。
- ・ 地元からの要望も市を通して上がってきているものもあるし、ダイレクトに土木事務所に来る部分もある。
- ・ 市とも相談しながら、維持管理で対応する箇所について整理して出させていただく。

委員)

- ・ 年度末ぐらいまでに 3 月までに出してほしい。

事務局)

- ・ 地元からの要望もたくさんいただいているようなので、資料を出させていただく。

委員)

- ・ 今度また議会も始まるし、関心のある人は一般質問も出してこられる。

事務局)

- ・ 利水面の改良区と関西電力も月曜日から協議に入っている。
- ・ なかなか簡単ではない、向こうにも向こうの事情があると言うのがわかってきた。
- ・ 緊急時にどれだけのことが協力できるのかというところで協議を進めているので一定の方向が出たら報告させてもらおう。

委員)

- ・ こちらも言うだけのことは言った。我々も、やっぱり一生懸命になっている。

委員)

- ・ 10 年のことをきちんと聞きたいし、市民に報告できるようにしてほしい。

以上